

2008年11月12日

各 位

会 社 名 朝日インテック株式会社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 宮 田 尚 彦
(東証第二部・名証第二部・JASDAQ コード番号：7747)
問 合 せ 先 専 務 取 締 役 竹 内 謙 次
(TEL.052-768-1211)

業績予想(連結)の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、2008年8月12日の「平成20年6月期 決算短信」で公表致しました2009年6月期(2008年7月1日～2009年6月30日)の第2四半期累計期間及び通期の業績予想について、下記の通り修正致しましたのでお知らせ致します。

記

1. 第2四半期累計期間の業績予想数値の修正(2008年7月1日～2008年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	5,755	2	27	110	6.97
今回修正予想(B)	6,243	519	141	225	14.23
増減額(B-A)	488	517	168	115	7.26
増減率(%)	8.5	20,485.8	-	-	-
(ご参考) 前期実績(2008年6月期中間)	6,086	660	653	240	15.18

(金額の単位:百万円)

2. 通期の業績予想数値の修正(2008年7月1日～2009年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	12,331	328	269	35	2.22
今回修正予想(B)	13,264	1,452	1,044	307	19.42
増減額(B-A)	932	1,123	775	272	17.20
増減率(%)	7.6	342.6	287.5	773.3	-
(ご参考) 前期実績(2008年6月期末)	11,700	1,057	937	473	29.86

(金額の単位:百万円)

3. 修正の理由

当社グループの主力事業であるメディカル事業において、主力製品 PTCA ガイドワイヤーの欧米市場向け取引の増加が見込まれることを主因として、売上高及び利益について、上記の通り上方修正を実施致しません。

当社グループは、海外の主軸市場である欧米市場におきましては、米国大手のアボット ラボラトリーズ社と主力製品 P T C A ガイドワイヤーの独占販売契約を 2011 年 12 月まで締結しており、かつ 2010 年 12 月末までは年次（1 月～12 月）で取引が増加する内容にて最低取引本数を定めておりましたものの、一時的に 2007 年の P T C A 市場が縮小したことを契機に、アボットラボラトリーズ社から 2008 年（1 月～12 月）の最低取引本数見直しの要請を受け、協議を開始しておりました。しかしこの度、数回に渉る協議の結果、2008 年の取引は当初の契約通りとなり、現在において 2008 年の最低取引本数に満たない部分全ての受注を受けることが確定致しました。これまでの業績予想では、当時の協議内容に準じた取引本数へ下方の見直しを行っておりましたが、今回の急激な受注増加を受け、2009 年 6 月期の業績は、従来予想を上回る可能性が高く、売上高及び利益についての上方修正を行います。今回の協議結果は、当社グループの製品が、競合他社に比べ高い技術優位性があることを表しており、今後もアボットラボラトリーズ社との現契約に基づき、欧米市場での当社グループ製品の拡販を目指して参ります。

また、上記の他、第 1 四半期業績確定を受けての反映、インダストリアルデバイス事業の売上減少の見通しの反映、為替レートの変更の反映、円高による為替差損の発生などの変更をしております。

第 1 四半期業績は、本日公表しております「第 1 四半期決算短信」に記載のとおり順調に推移しており、売上、営業利益、経常利益ともに当初予定を上回る水準にて推移しております。しかし特別損失として、投資有価証券評価損 252 百万円が発生しており、これら影響に伴い、第 2 四半期累計期間の四半期純利益の予想は前回予想を下回ることとなります。

インダストリアルデバイス事業につきましては、サブプライムローン問題に端を発した世界各地の景気減速感の影響を受け、産業機器市場のうち、特に建築、OA 機器、自動車、レジャーなどの分野が大変厳しい環境となっております。よって 2009 年 6 月期の業績は従来予想を下回る可能性が高く、売上及び利益について下方の反映を行っております。

為替につきましては、前回業績予想以降において、世界的な金融・資本市場の混乱や、外国為替市場において急激な円高が進んでおります。よって大変見通しのつきにくい状況ではあるものの、第 2 四半期以降の為替レートを 1 米ドル 103 円から 98 円、1 タイパーツは 3.49 から 3.2 円へ想定し直し致しました。これにより、売上高、売上原価、販売費及び一般管理費の減少が見込まれます。また、第 2 四半期累計期間においては、急激な円高の影響により、為替差損が当初より多く発生する見込みであり、経常利益について下方の反映を行っております。

これらを総合し、第 2 四半期累計期間につきましては、売上高・営業利益・経常利益の上方、四半期純利益の下方、また通期におきましては、売上高・営業利益・経常利益・四半期純利益の上方の修正を行っております。

なお、配当予想につきましては、現在のところ変更はございませんが、長期にわたり安定的な配当を継続することを基本方針として、今期最終連結業績、今後の業績見通しなどを総合的に判断して決定する所存です。

以上